



元気っ子

No 343 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

先月は「生活発表会」にご参加いただきありがとうございました。年齢別、また個としての発達の現在地がご覧いただけたのではないのでしょうか。今回初めて、ひよこ・りす組は事前に撮影した動画をご覧頂きました。クラスが進級したら急に何かができるようになるのではなく、ゆるやかに発達が進んでいく様子をご理解いただけたのではないかと思います。これが保育所保育指針の「一人一人の発達過程に応じた保育」であり、ながさわ保育園の「たてわりではない異年齢」の考え方の基本になります。

学校教育の履修カリキュラムとは違い、経験カリキュラムである保育においては、子どもたちは「環境を通して」発達をしていきます。次の発達段階へのステップももちろん「環境を通して」行われます。ご家庭でもさりげなくそういった環境をご用意いただき、子どもたちの「やってみたい」を応援していただければと思います。この「やってみたい」が実現できることで子どもの発達は促されます。

ながさわ保育園の子どもたちは、日々、子ども集団や対保育士との環境、ゾーン環境、セミバイキングや活動選択などの環境を通して、学びや発見をしながら、それぞれの発達が促されています。しかし地方都市の保育環境ではなかなか用意しにくい環境のひとつに「公共」というものがあります。都市部では日常の園外活動等の中に博物館や駅、スーパー、商店街、図書館など多くの人が集う公共の場がありますので、公共を経験するための保育を行いやすいのですが、地方都市では遠足等の行事でしか経験できません。この部分については是非ご家庭において子どもたちに経験させてあげてほしいと思います。

たとえば、休日等にご家族でお出かけをすることがあるかと思いますが、多くのご家庭では車を使って出かけることが多いかと思いますが、お出かけは乳幼児期の子どもが「公共」知る絶好のチャンスです。是非、公共交通機関をご利用しての計画をしてみてください。公共交通機関を利用することで、子どもは不特定多数の人が利用する場所では静かにしなくてはいけないことを知ったり、車窓から見える景色の移ろいを眺めながらの親子の会話の中から、子どもなりに季節や自然の変化を感じます。また地理や距離、時間の概念も次第に理解していきます。大人は車での移動が楽だと思いますが、せっかくのチャンスです。大人の楽よりもまずは子どもの最善の利益を最優先に、機会を有効利用していただければと思います。なお、感情抑制機能や自律心が育ち、ルールが存在を理解し始める2歳児頃からは是非始めてみてください。学童期以降から取り戻していくこともできなくはないと思いますが、それなりに時間を要することになるかと思います。

このように乳幼児期の発達にはそれぞれ適している時期というものがあります。それは発達の順序に沿って行われるものです。つまり早期教育のように「サキドリ」でもいけませんし、環境を用意せずに遅れてしまってもいけません。たとえば文字の読み書き等言えば、就学前にやらなくてはいけないことは文字の読み書きの習得ではなく、学習に対する「期待感」や習った文字をきちんと紙に書くための「筆圧」また線に沿って鉛筆を動かすための「随意筋」の発達や「傾聴する力」などです。これらが育っていない中で文字を習っても習得していくことは難しいです。保育園ではこれらの力が育つような環境を日々用意しながら保育を行っています。ただ家庭の育児がこの考え方とズレがあると子どもが混乱してしまいます。是非ご家庭でも「環境を通す」ことと順序に沿った発達を意識して育児を楽しんでいただければと思います。